

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500161		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1390-1		
自己評価作成日	令和3年8月9日	評価結果市町村受理日	令和4年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①コロナ禍における感染予防対策を徹底して行っている。(玄関やリビングでのオゾン発生器の使用。職員個人のウィルス除菌剤の携帯使用。リモート機器を使用しての会議) ②災害時の対策(業務継続計画による委員会の設置。停電時の非常電源設備の設置。)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑豊かな山々に囲まれ、田園風景が広がる自然豊かな環境に佇むホームである。近くには小学校があり、校庭で遊ぶ子供たちのにぎやかな声が聞こえる。建物は平家造りで、外観は白を基調とし、玄関までのスロープの両側には観葉樹が植えられ、モダンで洗練された印象を受ける。長く安定した運営がなされており、職員の定着率も高い。コロナ禍であっても、施設の中で楽しく過ごせるよう、個々の職員が知恵を出し合い、中庭でのビアガーデンやお茶会の開催、手作りのグランドゴルフ、おやつ作り等、入居者が生き活きと生活できるような工夫がなされている。ホームについて、「一人の人間として人が求められる場所」と話す職員が多く、個人を尊重し、互いに支えあい役割のある生活を送れるよう支援する姿勢が根付いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信念の詩を職員が常に目に着くところに掲げている。	ミーティングや実践を通して理念について振り返る機会があり、理念を共有し実践に繋げる取り組みが日常的になされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染防止の為に利用者が地域の方々と交流する事は控えている。	長く地域に根付いたホームであり、コロナ禍以前は小学校や幼稚園との交流も盛んに行われていた。現在は、これまで育んだ地域との繋がりが途切れないよう、電話やオンライン、SNSでの交流等、工夫に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折、家族や地域の方の参加者に対し、現場の取組みなどを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度はコロナ禍にあり、文書にて実際のケアの取り組みを紹介した。今年度は感染対策をしながら、顔を合わせて意見交換をし、サービスの向上に活かす事が出来た。今後はリモート会議を予定している。	オンラインを活用し、リモート参加を併用した会議を開催している。会議の雰囲気はよく、活発な意見交換が行われ、地域の情報を得る場として活用している。出された意見はサービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	初めての新型コロナウイルスワクチンの接種を受けるに当たり、市役所の開催する説明会に参加し、情報の交換を行った。	市の担当部署とは顔の見える関係性で、日頃からよく相談している。市から入居に関し相談を受けることもあり、互いに協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会で協議を重ね、年に2回施設全体の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全上やむを得ず身体拘束を行う場合は、毎月モニタリングを行い身体拘束適正化委員会で協議し、段階的な解除に向けた取り組みを行っている。身体拘束に関するマニュアルや同意書等の書類、議事録の整備もなされている。	本人の状態に十分留意し、身体拘束に頼らないケアに取り組む意識を全職員で共有しながら、止むを得ず身体拘束を行う場合は、解除に向けた取り組みの継続が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する言葉づかいや態度をお互いに確認し合っている。虐待防止に関する研修会にも参加し、ホーム内でも事例を出し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要な方があれば、活用できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはコロナ禍で面会は控えているが、電話連絡で日々の状況報告をし、相談しやすい関係ができています。運営推進会議で外部委員の意見も取り入れ、会議録や意見用紙を家族に送付し、要望を聴取している。	電話での状況報告を随時行っている他、オンラインを活用した面会を開始する等、家族の意見を運営に反映するよう努めている。家族とも良好な関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングなどで意見交換が行われ、スタッフの意見や提案等を運営に活かしている。代表者や管理者とも話す機会を毎週持つようにしている。	職員同士の信頼関係を大切に、課題についてはすぐに話し合い、職員が共通認識を持ってケアが出来るよう工夫している。報告・連絡・相談を確実に出来るよう、管理者は話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的なかかわりを持つ機会を増やし、個人に応じた支援が出来るよう努めている。必要な研修にも参加できるよう機会の確保にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインの研修会等で同業者の方々と意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優先的に関わる時間を取り生活歴、ご本人の気持ちなど理解や把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的に食器洗いや洗濯物を干したり等の家事を手伝って下さっている方もおられる。出来る限り自立した生活が出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各自のなじみを把握し、なるべく個人対応できるように努めている。コロナ禍で外出や面会は制限されているが、年賀状や手紙、電話でのやり取りを支援した。	コロナ禍のため全員で外出する機会は減ったが、少人数で馴染みの場所等へのドライブを行っている。また、家族の協力を得ながら手紙等での交流を支援し、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での活動を充実させ、入居者同士の交流が出来るようにしている。(風船バレーや卓球等のレクを一緒に行った。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向を確認するよう努めている。(買い物、散歩、ドライブなど)。	表情や仕草から気持ちをくみ取る他、入居者の状態に合わせ、紙やペン、鈴等の道具を用いながら本人が意思表示が出来るよう工夫し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的(3か月)に担当者会議を行い、担当者の意見や家族の意見を参考にし、全スタッフで評価を行い支援内容を見直し、介護計画を作成している。	原則3ヶ月に1回、介護計画を更新し、現状に即したプランとなるよう努めている。しかし、担当者会議に本人や家族の参加が少なく、家族との話し合いに不足が見られる。	介護計画について家族と話し合う場の調整が望まれると共に、本人・家族の意見を反映しやすい仕組み作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月に一度、または心身状態に変化がある時は検討会を持ち、介護計画の見直しに心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズについての検討会を持ち、臨機応変にサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域資源の活用はほとんど出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を密にし、病状により専門医受診をしたり、歯科・眼科の往診を受けている。	本人や家族が希望するかかりつけ医を選択することが可能であり、歯科や眼科等、専門医の往診も行われ、適切な医療が受けられるよう体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば、素早く看護職に伝え、迅速な検討をし、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や相談に努めている主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にソーシャルワーカーとの連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末に向けた方針を伝え、ホームで出来る事を確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。今年度は看取りの方はいなかった。	入居時や状態変化時等に看取りについて説明し、希望があればホームでの看取りを行っている。ホームで出来る事と出来ない事を家族と話し合いながら、本人・家族の意向に沿い、チームでの支援に努めている。また、職員に対し、看取りに関する研修を年2回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法、応急手当等のマニュアルは準備しているが、現在は定期的に勉強会を行ってはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設置し定期的な話し合いを行い、避難方法の確認、訓練を行っている。5月には、消防団の方々が見学に来られ助言を頂いている。8月に全棟で水害時の避難訓練実施。	年2回、火災避難訓練を実施している他、地震への対策としてガラスの飛散防止フィルムの施行、家具の転倒防止も行っている。業務継続計画(BCP)の作成と、これに則った準備に着手している。水や食糧の備蓄の他、自家発電も備えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴を把握しその人の立場に立って物事を考え、配慮した言葉かけを行っている。	入居者個々人の生活歴を考慮し、本人にとって心地よい関わり方になるよう、全職員が心掛けている。個人情報管理も適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を確認するようし、職員が決定権を持つのではなく、主導権を利用者が持てるように、待つ体制を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、一人ひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方と一しょに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に応じて、準備や片付けを手伝って下さっている。	日頃から、おやつ作りや行事食、中庭でのお茶会、ビアガーデン等、食事が楽しくなる工夫に努めている。また、味見や食器の片づけを入居者と共に行い、食べる事への意識付けもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、また、各人の身体状態に応じた食事形態(おかゆ・刻み・ミキサー食など)を提供している。また、栄養改善のためのサプリメントを服用して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の能力に応じた口腔ケアを行っている。必要な方には歯間ブラシで介助したり、コンクールを滴下した水でうがいをして頂いている。毎日ポリデントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導がなされている。また、羞恥心に配慮し自尊心が傷つかないように支援している。	羞恥心に配慮したケアに努め、排泄チェック表を活用する他、感情の変化による排泄パターンにも着目し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、運動(リハビリ体操・レクリエーション)を行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴をできるように支援している。出来ない時には状況に合わせて、シャワー浴・清拭・ドライシャンプー・手浴・足浴などを行い清潔保持に努めている。	週2日から3日の入浴を基本とし、本人が心地よく入浴できるよう、声掛けや入浴のタイミングを工夫している。リフト浴がある他、入浴出来ない時でも清潔に過ごせるよう清拭等の対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促したり、フットマッサージを行うなど、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい利用者の入居時にその人の病状や飲まれている薬の確認を処方箋を基に職員同士で行っている。たまに服薬ミスもあり、その都度反省会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケしたり、童謡の合唱をリードしたり、食器の片づけ、洗濯物たたみ等役割を感じて張り合いを持って取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で人との接触を避け、中庭やホーム周辺の散歩をしたり、少人数でのドライブで気分転換できるよう心掛けている。	広い敷地内やホーム周辺の散歩を日常的に行い、本人の希望に沿って戸外へ出かけられるよう支援に努めている。遠方へのドライブも、感染症対策を行い、少人数で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は本人に金品は持たせてはいないが、希望される時にはいつでも使えるように管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは電話をかけて頂いている。また、家族からかかってきた時は電話の取次等、必要な時に応じて仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、室温と湿度の管理を行い、換気にも心掛けている。空気清浄機やオゾン発生器を使用し、居心地よい環境整備が出来るよう工夫している。	大きな窓があり屋内は明るく、清潔に保たれている。定期的な消毒と換気その他、空気清浄機や除菌装置を活用し、温湿度にも配慮する等、安心して安全な生活環境作りに努めている。職員は声の大きさや足音にも配慮し、季節の花を飾る等、居心地のよい共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一緒にテレビを観れたり、個室で静かに読書をする事が出来るように一人一人に気を配って対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのもの、希望の品などニーズに合わせて、その都度対応している。テレビを希望される方には居室に設置できるようにしている。	使い慣れた家具やこだわりの物を持ち込み、住み慣れた部屋となるよう個性あふれる居室づくりがなされている。家具の配置は安全に配慮しながら本人や家族と相談し、決めている。各居室にはわかりやすい表示がなされ、入居者が混乱しないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。		